

## 英語

## ●出題の意図

公募推薦は、本学で学修するために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力といった基礎的な力を備えているかを評価します。

PartI、PartIIIは、語彙やイディオム、各種構文などについての基本的な知識を確認するための問題です。PartIIIは、短い英会話を読んで、英語で適切に受け答えができるかを問う問題です。PartIVは、短めの英文を読み、そこに含まれる情報を的確に把握できるかを問う問題です。読み取りが求められる情報は、オンラインストアの広告文のような実用的な内容、あるいは何らかの話題についてのメール文など多種多様です。

こうした多岐にわたる場面に対応できる実践的な英語力を測ることがこの問題の意図です。

以上のような多様な出題により、受験生の基礎的な英語力を測ることを目的にしています。

## ●傾向と対策 読解問題は、解答に必要な情報を常に意識しながら読もう

I・II・III・IVの全4パートからなり、全30問の構成で、選択肢はすべて4択です。Iは文法を中心とした空所補充問題が10問、IIはイディオムを中心とした空所補充問題が10問、IIIは会話文の完成問題が6問、IVは読解問題が4問です。前半2パートが知識問題、後半2パートが読解問題に分類できます。読解問題を解く上で重要なのは、何の情報を求められているのかを常に意識することです。会話文であれば、直前だけでなく最初の文からの流れを意識し、応答として成立する情報を選択肢の中から選ぶことが大切です。内容一致問題は、いきなり本文を読むのではなく、設問を先に読み、何を答えればよいか、あらかじめ確認しておくことで効率が上がります。消去法も上手く使いながら、適切な選択肢を選べるよう日頃から練習しましょう。

## 国語

## ●出題の意図

問題は、文章題(長文問題)2問と、漢字や語句に関する問題1問の大問3問で構成されています。

文章題は、主に受験者の読解力を判断するために設けています。比較的文字数の少ない題材を用い、その主題や表現されている内容を読み取れるかどうかを判断する問題を作成しています。具体的には、選択肢の内容が題材と合致しているかを問う問題、文章全体の要旨を問う問題などです。

漢字や語句に関する問題は、基礎的な国語力を判断するためのものです。漢字の読み・書き問題や、四字熟語、慣用句などに関する問題によって、受験者の知識を測り、基礎的な国語力を判断することが狙いです。

## ●傾向と対策 文章内容をしっかり押さえて、高得点をめざそう

大問3問で構成されており、第1問・第2問で論説文・評論文を題材にした文章読解の問題、第3問で漢字の読み書き、四字熟語や慣用表現の知識を問う問題が出題されています。読解問題については比較的読み取りやすい文章が出題されており、問われる内容も文章内容が理解できていれば十分に答えられるものになっています。文脈など細部の理解よりも文章内容それ自体の理解を問うことに重点が置かれていることに留意して学習を進めていきましょう。また、第3問では読み書きを問う問題で、普段は目にするものの少ない熟語も出題されています。四字熟語・慣用表現などについて語彙力を豊かにするとともに、漢字の読み書きにも力を入れて学習を進めましょう。

## 数学

## ●出題の意図

公募推薦の数学においては、まず高校の数学I・Aの教科書の練習問題程度の基礎力が身につけているかを幅広くチェックします。大問の題数はやや多めとしていますが、ある小問の答えを次の小問で活用するというものは少ないです。単なる計算問題ばかりではなく、数学の応用力を測る文章題も出題されます。文章を的確に読み取って計算式が立てられるかを問います。数学Iでは特定の単元が出題されないということではなく、「データの分析」の単元からも必ず出題があります。統計値の算出だけでなく、用語の知識を問う問題やグラフの読み取りの問題もあります。

## ●傾向と対策 各分野の公式を確実に覚え、使いこなせる力を養おう

全問マークセンス方式で、数学I・Aの範囲から、日程により多少の差異はありますが、5問から8問程度が出題されます。解答形式は、数値を直接マークする形式と選択肢から選ぶ形式があります。出題範囲が広いので、不得意な分野を残さず学習することが大切です。まずは各単元の公式を正確に覚え、問題演習を繰り返して使い方身につけましょう。公式を覚える際は、どのような場面で使うかも意識しておくことで実践で活かしやすくなります。解答する時は符号や数値の扱いに注意し、丁寧に計算を進めることも重要です。本番に向けて、過去問題で出題傾向をつかみ、時間内に解き切る練習を重ねておきましょう。